

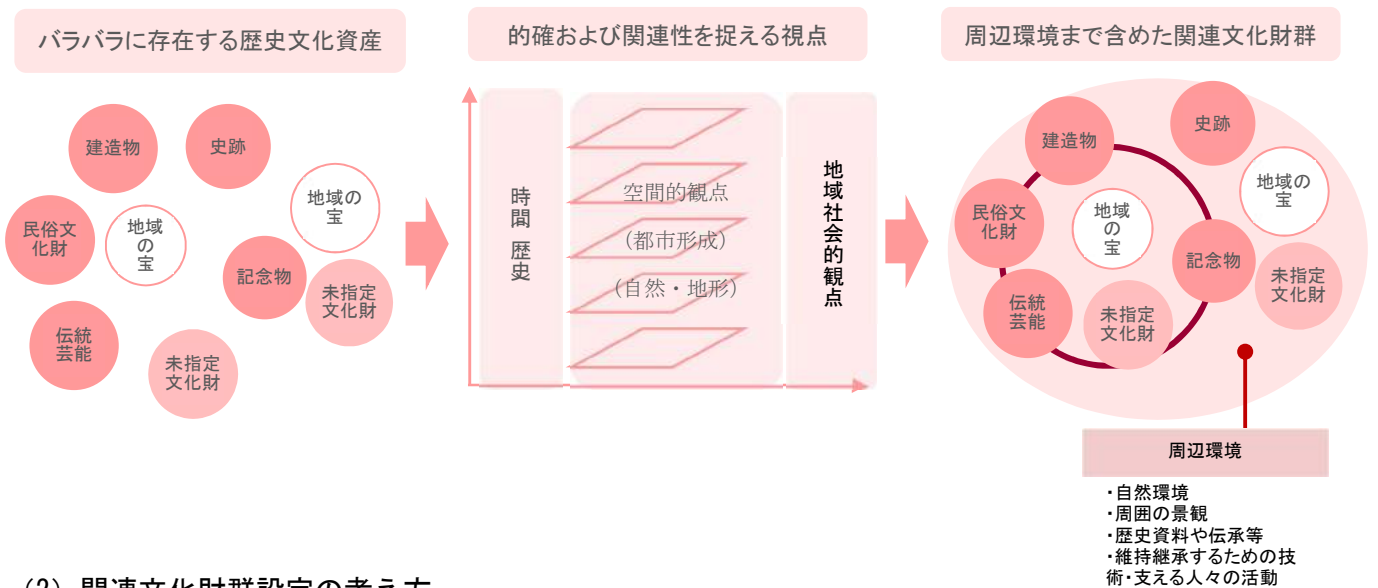
第4章 札幌市の関連文化財群

1. 関連文化財群設定の考え方

(1) 関連文化財群の考え方

本来文化財とは、文化財単体で成立し価値を形成しているものではなく、他の要素と密接な関係を持ちながら形成し、継承されてきたものである。文化財本来の価値を適切に保全するために、有形・無形、指定・未指定に関わらず、様々な文化財の歴史的・地域的関連性(ストーリー)を整理し、関連文化財群としてとらえることで、文化財について市民へ分かりやすく伝えることができ、文化財への理解を深めることに繋がる。

また、関連文化財群とは歴史的・地域的関連性(ストーリー)に基づく文化財だけではなく、周辺環境(資産を物語り・繋げるもの、支え維持・継承する仕組み)も含めて捉えることが重要である。



(2) 関連文化財群設定の考え方

札幌市の関連文化財群を設定するにあたっては、広域にわたる札幌市において、多面的・多角的な視点により札幌の歴史文化資産の特徴を捉え関連する文化財を見つけるため、前述のように地域的・歴史的・空間的視点から札幌市の姿を表す「キーワード」を抽出し、第3章で記載した文化財の把握によって整理された文化財を「キーワード」で再整理したうえで、歴史的関連性、地域社会的関連性、空間的関連性の観点から札幌市の「特徴」を整理する。こうして抽出された、札幌市の歴史文化を物語るうえで欠かすことのできない「特徴」に関連するものの集まりを関連文化財群として設定する。

◆札幌市の関連文化財群とは

- ・歴史的関連性・地域社会的関連性・空間的関連性から見出すもの
- ・札幌市の歴史文化を物語るうえで欠かすことのできない「特徴」に関連する文化財の集まり
- ・札幌市の歴史文化の特徴をよく反映したものであること
- ・市民が誇りだと感じるものであること
- ・関連する文化財が無形、有形とも多く見出されていること
- ・今後も継続して市民とともに増やしていく

関連文化財群の繋がりを分かりやすく伝える歴史的・地域的関連性＝ストーリー（以下「ストーリー」）を設定する際は、整理された文化財について、文献などの調査や周辺環境の調査を実施することによって、ストーリーを見出していく。その際には活用の観点からのストーリーを設定することなども考えられる。

※今後の調査、策定員会、ワークショップにより文章変更

※関連文化財群の認定のプロセスは今後検討していく。

2. ストーリーと関連文化財群

(1) 関連文化財群のストーリーの設定

札幌市の歴史文化の特徴別に関連文化財群のストーリーを以下のように設定する。

札幌市の歴史文化の特徴	関連文化財群
1) 札幌の豊かな地形・地質が育んだ古の文化	1) -1 変化に富む地形と先人たちの歩みが今に伝えるもの
2) 藻岩山や豊平川に代表される豊かな自然と今に継承されるアイヌ文化	2) -1 自然とアイヌ語が教えてくれる現在に継承されるもの
3) 水の都に開拓使が築いた札幌市街地	3) -1 碁盤の目の街並みと開拓使が描いた夢 3) -2 メムが育み発展した産業
4) 市域の拡大が行われながらも今に残る地域特有の歴史文化	4) -1 北の地を守り開拓した屯田兵が残したもの
5) 冬季オリンピック札幌大会によって大きく変化したまち	5) -1 国際都市へと札幌を発展させた冬季オリンピック札幌大会のレガシー
6) 鮮やかな四季の移り変わりと市民の暮らし	6) -1 雪国の大都市さっぽろで育まれた雪を楽しむ暮らし
	6) -2 新緑の中の札幌まつりに代表される季節の風物詩
	6) -3 姿を変えながら市民生活を支え続ける路面電車

1) -1 変化に富む地形と先人たちの歩みが今に伝えるもの

概要

札幌市内全域には、旧石器文化、縄文文化、続縄文文化、擦文文化、アイヌ文化期の遺跡が多く残されています。旧石器文化の化石では、世界最古のサッポロカイギュウが発見され、札幌市がその当時海であり、豊かな生態系を有していたことを今に伝えています。その後、地形は変化を続けますが、縄文文化以降の遺跡は、札幌の地形図と重ねると台地や川の周辺に多くなっており、現在の地形・自然と先人の生活の場の関係性を垣間見ることができます。

埋蔵文化センターなどには多くの関連資料等が収蔵・展示されており、先人たちの歩みや生活文化を学ぶことができます。

文化財の例: サッポロカイギュウ、旧琴似川流域の堅穴住居跡分布図、札幌市 N30 遺跡出土品、S354 遺跡、N30 遺跡、H37 遺跡、K135 遺跡、K39 遺跡、K501 遺跡、K518 遺跡、N434 遺跡、K435 遺跡、札幌市埋蔵文化センター収蔵品、博物館活動センター収蔵品、丘珠縄文遺跡 など

2) -1 自然とアイヌ語が教えてくれる現在に継承されるもの

概要

アイヌ民族の歴史を物語る遺跡や遺物は北海道各地に広がっていますが、札幌市内でも確認することができます。また、市内の地名や川や山の名前はアイヌ語に由来しているところが多く、和人が入った後もアイヌ語を元とした名前が継承されています。また、アイヌ語の意味を知ること、開拓等で今は失われた自然など、その地の原風景を知ることができます。

さらに、北海道をけん引する都市である札幌には、北海道立アイヌ総合センターなどアイヌ文化を知ることのできる史料等があり、アイヌ語やアイヌ工芸などを教える団体も多く存在しており、アイヌ文化の継承が活発に行われています。

文化財の例: S501 遺跡、S518 遺跡、アイヌ語地名、メム、アイヌ古式舞踊、アイヌのまるきぶね(T 末期)、サッポロピリカコタン、アシリパノミ、コタンノミ、アシリチェップノミ、ウレシパモシリ北海道イランカラブテ像、北海道立アイヌ総合センターなど

3) -1 碁盤の目の街並みと開拓使が描いた夢

概要

開拓判官島義勇は、「コタンベツの丘(現在の北海道神宮の背後の丘)」から真東を望み、創成川(当時は大友堀)との交点が町づくりの原点となったといわれています。1889(明治 2)年、開拓使が置かれた後、現在の南 1 条通りを東西軸、創成川を南北軸として、中心に本府を建設し創成川に創成橋を設置。北西部に官庁・学校を、北東部は官営工場、南西部に町屋・住宅を、南東部には流通・宿泊施設を設置するという考えを基本として、島判官の後を引き継いだ岩村道俊判官が中心となって、現在の碁盤の目の札幌市街地が形成されました。

1871(明治 4)年から北海道庁設置の 1886(明治 19)年までの後期開拓使時代は、黒田次官が招いた御雇外国人ホーレスケプロンの構想である「開拓使十年計画」を基に進められ、特に札幌農学校、開拓使麦酒醸造所などは本府札幌にとっても大きな事業の一つであり、今日の札幌の発展に多くの足跡を遺しました。碁盤の目の街並みや開拓使が置かれた時代の建物や跡地など今でもその姿と発展を見ることができるといわれています。

文化財の例: 島義勇、コタンベツの丘、大友堀、創成川、建設の碑、創成橋、黒田清隆、開拓使麦酒醸造所、碁盤の目の街並み、お雇い外国人、ケブロン、ダン、クラーク、札幌農学校、時計台、開拓使札幌本庁本庁舎跡および旧北海道庁本庁舎、開拓使文書、豊平館 など

3) -2 メムが育み発展した産業

概要

開拓使が札幌を北海道開拓の中心地として選んだのは、大河石狩川の舟運により内陸部そして日本海・太平洋と四方への便からでした。さらに対外関係、特にロシアの南進に備えて日本海沿いに設置されたと考えられます。この選定は、開拓判官であった松浦武四郎によるもので、本府建設の地を模索している際、文化年間(1804~1817)に近藤重蔵が残した記録を基に、現地の二人のアイヌの酋長とともに周辺を調査し、主に石狩川への舟運の便を理由に、豊平川を遡る 3 里(約 12km)の地に適当な所(札幌)があることを確認しました。

開拓判官島義勇が札幌に描いた夢を基に、既に大友亀太郎が農業用に掘った創成川(旧大友堀)と南 1 条が交わる場所を基点とした碁盤の目の街並みなどが形成されました。その際、舟運の便だけでなく、豊平川扇状地の豊富な地下水資源も注目されました。メム(湧水)や旧河川等の水の豊富な中心部に、開拓の首府が設置されました(現道庁付近)。また西側には農業・工業試験場を兼ねた偕楽園等、東側には工業局用地(後に製糖・製麦、ビール・酒造工場等が立地)等と、西側と東側のメム及び旧河川跡周辺に設置しました。開発によってメムは消失してしまいましたが、現在もビールや日本酒は札幌の地下水で作られています。

文化財の例: 松浦武四郎、豊平川、扇状地、メム、大友亀太郎、創成川、ビール工場、酒造工場、偕楽園、キムクシメム、ヌプサムメム、ピクシムメム、碁盤の目の街並み など

4) -1 北の地を守り開拓した屯田兵が残したもの

概要

屯田兵制度は明治 7 年に、士族に士族としてのプライドを保たせながら、北海道の防備を固めると同時に農業開拓に当たらせることを目的に制定されました。志願者は屯田兵の家である兵屋と土地、移動費、家具や農具、制服、最初の 3 年間は扶助米などが与えられ、家族を連れて入植しました。札幌では、琴似を始めとして、以降、発寒、山鼻、新琴似、篠路と入植が進み、各地域には多くの人々が入植し、それぞれの地域特有の暮らしや文化、精神を今に伝えています。

文化財の例: 黒田清隆、篠路屯田、新琴似屯田、発寒屯田、琴似屯田、山鼻屯田、屯田兵、永山武四郎、旧永山武四郎邸、屯田兵関連写真、琴似屯田兵村兵屋跡、琴似屯田兵屋 など

5) -1 国際都市へと札幌を発展させた冬季オリンピック札幌大会のレガシー

概要

1940年に一度開催が決定していた札幌オリンピックは、日中戦争の影響により開催権を返上した幻の冬季オリンピックでした。それから32年の1972(昭和45)年の冬季オリンピックの誘致が決定してからは、札幌市内には様々な競技場が建設され、いまま札幌市民に親しまれています。なかでも大倉山ジャンプ競技場や宮の森ジャンプ競技場は、市内を一望できる観光地としても人気が高く、また真駒内の屋内外各競技場では、スケートの国際大会やマラソン大会などが盛んに行われ、スポーツイベントの開催地としても知られています。

整備されたのは競技場だけではなく、地下鉄や地下街の建設、民間資本の建設ラッシュ、選手村となった真駒内地域の開発など札幌のまちを大きく変化させました開発は、いまま札幌市民にとって欠くことのできないものです。

アジアで初めての冬季オリンピックは成功に終わり、冬季オリンピック札幌大会は、札幌を国際的にも知られるまちへと発展させました。

文化財の例:地下鉄南北線・東西線・東豊線、オーロラタウン、ポールタウン、大倉山ジャンプ競技場、宮の森ジャンプ競技場、サッポロテイネ、セキスイハイムスタジアム、真駒内公園、五輪大橋、地下暖房、ニトリ文化ホール、虹と雪のパレード、ジャネット・リン など

6) -1 雪国の大都市さっぽろで育まれた雪を楽しむ暮らし

概要

シベリア大陸からの冷たい空気と日本海からの水蒸気の影響を受ける日高山脈や札幌南西部山地が防風壁の役割を果たし、札幌市は多く降雪がある裏日本型の気候区に入っています。そのため、年間6メートルもの降雪がありますが、190万人都市でこれほど降雪があるのは世界でもめずらしいことです。都市の中の大雪は市民生活にとって課題となることも多いものの、札幌市民は昔からその雪を楽しんで暮らしてきました。その中でも「さっぽろ雪まつり」は1950(昭和25)年に地元の中・高校生が6つの雪像を大通公園に設置したことをきっかけに始まり、今では国内外から観光客が訪れるお祭りです。観光のイベントとして有名になった今でも大通公園11丁目には、市民雪像が設置され市民が参加して楽しむ精神は受け継がれています。

自然の中で雪を楽しむ冬登山やスキーは、札幌農学校の外国人教師等によってもたらされ明治のころから市民に広まってきました。その後現在でも藻岩山スキー場やサッポロテイネ、札幌国際スキー場など施設も充実し、市民が身近にスキーを楽しんでいます。……………

文化財の例:藻岩山、円山、手稲山、荒井山、スキー、ハンス・カラー、札幌国際スキー場、盤渓スキー場、サッポロテイネ、雪まつり、市民雪像、中谷宇吉郎、さっぽろホワイトイルミネーション、雪景色 など

6) -2 新緑の中の札幌まつりに代表される季節の風物詩

概要

1872(明治 5)年に札幌神社(現北海道神宮)の例祭が 6 月 15 日に決定しましたが、その年は幣帛の到着が遅れたため、7 月 7 日岩村判官参列の元、取り行われたのが札幌まつりの始まりです。1877(明治 10)年に札幌の人々から神幸を願う声があり、翌年に神輿が巡回したのが、札幌まつりの渡御の始まりでした。その後、現在まで毎年開催されており、新緑に彩られる街中を山車が練り歩く姿や中島公園、北海道神宮での見世物小屋や出店は夏の風物詩となっています。※アイヌの参加について追記

文化財の例:札幌まつり、岩村判官、北海道神宮、北海道頓宮、サーカス小屋、創成川河畔、中島公園、山車、お化け屋敷、芸妓、など

6) -3 姿を変えながら市民生活を支え続ける路面電車

概要

人々の生活と密接に関係している交通と商業。特に市民生活と共にその姿を変化させてきた市電は、札幌の人口増加とともに路線延伸しその電停周辺の発展を支えましたが、地下鉄の建設と共に次々と縮小していきました。しかし、平成 27 年、ループ化による路線延伸が行われたことで、札幌の顔としての印象を高めています。

文化財の例:馬車鉄道、路面電車、市電、記念花電車、縮小された路線、ササラ電車、花見輸送、円山公園のお花見、年末年始輸送、二条市場、交通資料館、電車事業所、テレビ塔、路線ループ化、ボラリス、南一条通り など

3) -1 碁盤の目の街並みと開拓使が描いた夢

札幌は明治2年、開拓使が設置されたことで市街地の本格的な開拓がはじまった。開拓主席判官島義勇が札幌の原野を見て描いた「いつか札幌を世界一の都に」という壮大な夢が、今の札幌の市街地の発展に繋がっている。開拓使は明治15年に廃止されたが、その時代に生まれ発展した歴史文化が市街地に今でも姿や思想を残しており、札幌のまちの魅力となっている。

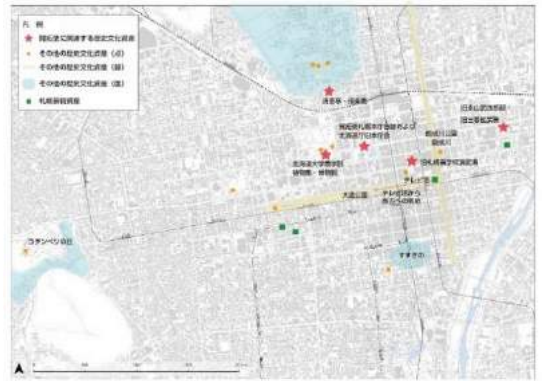
開拓判官島義勇は、「コタンベツの丘(現在の北海道神宮の背後の丘)」から真東を望み、創成川(当時は大友堀)との交点が町づくりの原点となったといわれている。現在の南1条通りを東西軸、創成川を南北軸とし、中心に本府を建設し創成川に創成橋を設置。北西部に官庁・学校を、北東部は官営工場、南西部に町屋・住宅を、南東部には流通・宿泊施設を設置するという考えを基本として、現在も残る碁盤の目の札幌市街地が形成された。現在でも、北西部には開拓使札幌本庁舎跡や時計台などが残され、北東部には札幌ビール工場などの工場施設、また、このころに設置された歓楽街としてのすすきの(当時は薄野)は現在も賑わいを見せている。

開拓次官(後の長官)黒田清隆はアメリカを中心とした地から、開拓顧問にホレス・ケブロンをはじめとして、測量・土木のワーフィールド、農業のエドウィン・ダンなど、多くの外国人技師たちを雇い入れて、先進国の農業・工業の知識や経験、専門技術の導入や機械など近代的なものを受け入れて、開拓の革新を図った。また、明治9年、東京の開拓使仮学校が札幌へ移転し、札幌農学校として開校、ウィリアム・クラークを教頭として迎えた。このように、開拓使時代の札幌には多くのお雇い外国人によって、西洋の文化や技術が導入され、今もどこか異国情緒感じるまち並みがあるのはそのためである。

札幌開拓の軸となった創成川には、平成27年に創成川公園が整備され、水辺にも下りていけるよう階段も整備され、多くの市民が訪れている。東西に延びる大通公園は、島判官による「石狩国本府指図」に公路的空間として描かれており、のちに長岡安平によって公園として設計されている。現在は、観光名所であるテレビ塔が設置され多くの観光客が訪れると共に日常的に市民の憩いの空間となっている。また、テレビ塔から大通公園を望む景色は東西にまっすぐ伸びており、開拓使時代に考えられた札幌のまちの構造とその発展を見ることができる。.....

No	大分類	中分類	小分類	名称
1	動産	無形要素	人物	島義勇
2	不動産	実物要素	建築物・工作物	島義勇判官功碑
3	不動産	実物要素	建築物・工作物	島義勇判官銅像
4	不動産	空間要素	伝承にまつわる場所	コタンベツの丘
5	不動産	実物要素	建築物・工作物	北海道神宮
6	不動産	実物要素	建築物・工作物	創成橋
7	不動産	実物要素	自然物	創成川
8	動産	無形要素	人物	岩村道俊
9	不動産	実物要素	景観	碁盤の目のまち
10	不動産	実物要素	遺跡	札幌開拓使庁舎跡
11	不動産	実物要素	景観	すすきの
12	不動産	実物要素	自然物	創成川公園
13	不動産	実物要素	自然物	大通公園
14	動産	有形要素	文献・資料	石狩国本府指図
15	動産	無形要素	人物	ホレス・ケブロン
16	動産	無形要素	人物	ワーフィールド
17	動産	無形要素	人物	エドウィン・ダン
18	動産	無形要素	人物	ウィリアム・クラーク
19	不動産	実物要素	建築物・工作物	時計台
20	動産	有形要素	文献・資料	開拓使各種資料
21	動産	有形要素	文献・資料	開拓使各種文献
.
.
.

■ 対象となる文化財の一例



■ 関連文化財群のマップの例



※今後の調査、策定委員会、ワークショップにより内容検討